

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

#2
JC879 U.S. PTO
09/910752
07/23/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2001年 2月15日

出願番号

Application Number:

特願2001-037808

出願人

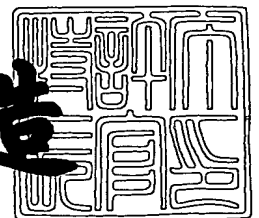
Applicant(s):

カシオ計算機株式会社

2001年 6月20日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3056404

【書類名】 特許願

【整理番号】 00-2027-00

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G02F 1/1333

【発明者】

【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 5 1 番地の 5
カシオ計算機株式会社八王子研究所内

【氏名】 北川 克己

【特許出願人】

【識別番号】 000001443

【氏名又は名称】 カシオ計算機株式会社

【代理人】

【識別番号】 100073221

【弁理士】

【氏名又は名称】 花輪 義男

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 057277

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0015435

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液晶表示装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の信号ラインを有する第 1 の基板と対向電極および該対向電極と同電位とされたブラックマトリクスを有する第 2 の基板とがほぼ枠状のシール材を介して貼り合わされ、前記信号ラインが引き回し線に接続された液晶表示装置において、前記引き回し線はそれに接続された前記信号ラインの延長線上に位置する延長部分および該延長部分に直交する直交部分を有し、前記引き回し線の延長部分と直交部分との交点の少なくとも一部は前記シール材と重なる領域に配置され、前記ブラックマトリクスは前記シール材と重なる領域に配置された前記引き回し線の前記交点と重ならない領域に配置されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点の近傍における前記ブラックマトリクスの一側縁部は前記シール材の内側に配置されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点の少なくとも一部は前記シール材と重なる領域に配置されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点は前記シール材と重なる領域およびその外側に配置されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 5】 請求項 3 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点は前記シール材と重なる領域およびその内側と外側に配置されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 6】 請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の発明において、前記第 1 の基板は前記第 2 の基板から突出する突出部を有し、該突出部上に走査信号供給用の半導体チップおよびデータ信号供給用の半導体チップが搭載されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 7】 請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の発明において、前記引き回

し線はそれに接続された前記信号ラインの両側に配置されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 8】 互いに交差する走査信号ラインおよびデータ信号ラインを有するアクティブ基板と対向電極を有する対向基板とがほぼ棒状のシール材を介して貼り合わされ、前記アクティブ基板の一辺部が前記対向基板から突出され、該突出部上の中央にデータ線駆動回路をその両側に走査線駆動回路を配置し、前記走査信号ラインの一部を前記アクティブ基板の一側部に形成された前記データ信号ラインと直交する方向に延びる前記シール材に少なくとも一部が重なる第 1 の引き回し線を介して前記走査線駆動回路の一方に接続し、前記走査信号ラインの残りを前記アクティブ基板の一側部に対向する他側部に形成された前記データ信号ラインと直交する方向に延びる前記シール材に少なくとも一部が重なる第 2 の引き回し線を介して前記走査線駆動回路の他方に接続したことを特徴とする液晶表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は液晶表示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

図 6 は従来の液晶表示装置の一部の等価回路的透過平面図を示したものである。この液晶表示装置は、アクティブ基板 1 と該アクティブ基板 1 の上方に位置する対向基板 2 とがほぼ方形棒状のシール材 3 を介して貼り合わされ、シール材 3 の内側における両基板 1、2 間に液晶（図示せず）が封入されたものからなっている。この場合、アクティブ基板 1 の下辺部は対向基板 2 から突出されている。以下、この突出部を下辺突出部 1 a という。また、シール材 3 は、図 6 において一点鎖線で示す表示領域 4 の外側に配置されている。

【0003】

アクティブ基板 1 上の表示領域 4 には複数の走査信号ライン 5 および複数のデータ信号ライン 6 が行方向および列方向に延びて設けられている。両ライン 5、

6の各交点近傍には、図示していないが、両ライン5、6に接続された薄膜トランジスタおよびこの薄膜トランジスタによって駆動される画素電極がマトリクス状に配置されている。

【0004】

走査信号ライン5の右端部は、その右側に設けられた引き回し線7を介して、アクティブ基板1の下辺突出部1a上の右側の点線で示す走査線駆動用の半導体チップ搭載領域8内に設けられた出力側接続端子9に接続されている。データ信号ライン6の下端部は、その下側に設けられた引き回し線10を介して、アクティブ基板1の下辺突出部1a上の左側の点線で示すデータ線駆動用の半導体チップ搭載領域11内に設けられた出力側接続端子12に接続されている。上記において、引き回し線7および引き回し線10は、それぞれ、両端の2本のみが図示されている。

【0005】

半導体チップ搭載領域8内およびその外側には入力側接続端子13および該入力側接続端子13に接続された外部接続端子14が設けられている。半導体チップ搭載領域8上には、図示していないが、走査信号ライン5に走査信号を供給する走査線駆動用の半導体チップが出力側接続端子9および入力側接続端子13に接続されて搭載されている。半導体チップ搭載領域11内およびその外側には入力側接続端子15および該入力側接続端子15に接続された外部接続端子16が設けられている。半導体チップ搭載領域11上には、図示していないが、データ信号ライン6にデータ信号を供給するデータ線駆動用の半導体チップが出力側接続端子12および入力側接続端子15に接続されて搭載されている。

【0006】

対向基板2の下面にはブラックマトリクス17、カラーフィルタ（図示せず）およびITO等の透明な金属からなる対向電極（図示せず）が設けられている。カラーフィルタは表示領域4内に設けられ、対向電極は表示領域4内から表示領域4の周辺部に亘りベタ状に形成され、ブラックマトリクス17は、表示領域4内では各カラーフィルタの境界のみに格子状に形成され、表示領域外では4辺の全てがシール材3よりも少し大きな外側縁17aを有する数mmの幅の方形枠形状

とされ、一部が対向電極上に重合して該対向電極と同電位となるようになっている。

【0007】

次に、走査信号ライン5の右端部と出力側接続端子9とを接続する引き回し線7の一部について、図7を参照して説明する。引き回し線7は、走査信号ライン5の延長線上に位置する延長部分7aおよび該延長部分7aに直交する直交部分7bを有している。この場合、延長部分7aのピッチは走査信号ライン5のピッチと同じであり、直交部分7bのピッチは走査信号ライン5のピッチよりも小さくなっている。また、各延長部分7aと各直交部分7bとの各交点7cは、すべてブラックマトリクス17の表示領域4の領域外で外側縁17aの内側に形成され、特に、交点7cの中の表示領域4側に位置するものは、ブラックマトリクス17がシール材3と重なっている領域に形成されている。

【0008】

つまり、この液晶表示装置は、アクティブ基板1の下辺突出部1aにデータ線駆動用の半導体チップ搭載領域11と走査線駆動用の半導体チップ搭載領域8を設け、半導体チップ搭載領域11内の出力側接続端子12に、表示領域4内で平行に延出されるデータ信号ライン6を表示領域4側に向けて扇状にピッチが拡大する引き回し部10を介して接続し、走査線駆動用の半導体チップ搭載領域8内の出力側接続端子9に、表示領域4内でデータ信号ライン6と直交する方向に平行に延出される走査信号ライン5を、表示領域4の領域外で該走査信号ライン5とは直交する方向に延出される直交部分7bを有する引き回し部7を介して接続したものであり、この液晶表示装置は、データ線駆動用の半導体チップと走査線駆動用の半導体チップとが、アクティブ基板1の一辺側にのみ搭載されるので、この一辺と直交する方向の液晶表示装置の大きさを小さくすることができるため、携帯電話等できるだけ狭い幅とすることが要求される電子機器に好適である。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、上記従来の液晶表示装置では、引き回し線7の延長部分7aと直交部分7bとが直角に折曲される交点7cの一部がブラックマトリクス17がシール材3と重なっている領域に形成されている。

ル材 3 と重なる領域に形成されているので、走査信号電位となる引き回し線 7 の交点 7 a と対向電極と同電位となるブラックマトリクス 1 7 との間に生じる比較的大きな電位差に起因して、シール材 3 から溶出したイオン性不純物が引き回し線 7 の交点 7 a に集中し、引き回し線 7 の交点 7 a で腐食が発生することがあるという問題があった。

この発明の課題は、シール材から溶出するイオン性不純物に起因する引き回し線の交点の腐食を防止することである。

【 0 0 1 0 】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 に記載の発明は、複数の信号ラインを有する第 1 の基板と対向電極および該対向電極と同電位とされたブラックマトリクスを有する第 2 の基板とがほぼ枠状のシール材を介して貼り合わされ、前記信号ラインが引き回し線に接続された液晶表示装置において、前記引き回し線はそれに接続された前記信号ラインの延長線上に位置する延長部分および該延長部分に直交する直交部分を有し、前記引き回し線の延長部分と直交部分との交点の少なくとも一部は前記シール材と重なる領域に配置され、前記ブラックマトリクスは前記シール材と重なる領域に配置された前記引き回し線の前記交点と重ならない領域に配置されていることを特徴とするものである。

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点の近傍における前記ブラックマトリクスの一側縁部は前記シール材の内側に配置されていることを特徴とするものである。

請求項 3 に記載の発明は、請求項 2 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点の少なくとも一部は前記シール材と重なる領域に配置されていることを特徴とするものである。

請求項 4 に記載の発明は、請求項 3 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点は前記シール材と重なる領域およびその外側に配置されていることを特徴とするものである。

請求項 5 に記載の発明は、請求項 3 に記載の発明において、前記引き回し線の前記交点は前記シール材と重なる領域およびその内側と外側に配置されているこ

とを特徴とするものである。

請求項6に記載の発明は、請求項1～5のいずれかに記載の発明において、前記第1の基板は前記第2の基板から突出する突出部を有し、該突出部上に走査信号供給用の半導体チップおよびデータ信号供給用の半導体チップが搭載されていることを特徴とするものである。

請求項7に記載の発明は、請求項1～6のいずれかに記載の発明において、前記引き回し線はそれに接続された前記信号ラインの両側に配置されていることを特徴とするものである。

請求項8に記載の発明は、互いに交差する走査信号ラインおよびデータ信号ラインを有するアクティブ基板と対向電極を有する対向基板とがほぼ枠状のシール材を介して貼り合わされ、前記アクティブ基板の一辺部が前記対向基板から突出され、該突出部上の中央にデータ線駆動回路をその両側に走査線駆動回路を配置し、前記走査信号ラインの一部を前記アクティブ基板の一側部に形成された前記データ信号ラインと直交する方向に延びる前記シール材に少なくとも一部が重なる第1の引き回し線を介して前記走査線駆動回路の一方に接続し、前記走査信号ラインの残りを前記アクティブ基板の一側部に対向する他側部に形成された前記データ信号ラインと直交する方向に延びる前記シール材に少なくとも一部が重なる第2の引き回し線を介して前記走査線駆動回路の他方に接続したことを特徴とするものである。

そして、請求項1に記載の発明によれば、引き回し線の交点の少なくとも一部をシール材と重なる領域に配置し、ブラックマトリクスをシール材と重なる領域に配置された引き回し線の交点と重ならない領域に配置しているので、シール材と重なる領域に配置された引き回し線の交点がブラックマトリクスと対向しないようにすることができ、これによりシール材から溶出するイオン性不純物が引き回し線の交点に集中しないようにすることができ、したがってシール材から溶出するイオン性不純物に起因する引き回し線の交点の腐食を防止することができる。

なお、請求項8に記載の発明によれば、アクティブ基板のシール材より外側の部分を小さくすることが可能となり、ひいてはアクティブ基板の例えば図5にお

ける左右方向の幅を小さくすることができる。

【0011】

【発明の実施の形態】

図1はこの発明の第1実施形態における液晶表示装置の要部の等価回路的透過平面図を示したものである。この図において、説明の都合上、図6に示す従来例のものと同一名称部分には同一の符号を付して説明することとする。

【0012】

この液晶表示装置は、アクティブ基板1と該アクティブ基板1の上方に位置する対向基板2とがほぼ方形枠状のシール材3を介して貼り合わされ、シール材3の内側における両基板1、2間に液晶（図示せず）が封入されたものからなっている。この場合、アクティブ基板1の下辺部は対向基板2から突出されている。以下、この突出部を下辺突出部1aという。また、シール材3は、図1において一点鎖線で示す表示領域4の外側に配置されている。

【0013】

アクティブ基板1上の表示領域4には複数の走査信号ライン5および複数のデータ信号ライン6が行方向および列方向に延びてつまり互いに直交して設けられている。両ライン5、6の各交点近傍には、図示していないが、両ライン5、6に接続された薄膜トランジスタおよびこの薄膜トランジスタによって駆動される画素電極がマトリクス状に配置されている。

【0014】

走査信号ライン5の右端部は、その右側に設けられた引き回し線7を介して、アクティブ基板1の下辺突出部1a上の右側の点線で示す走査線駆動用の半導体チップ搭載領域8内に設けられた出力側接続端子（走査信号端子）9に接続されている。データ信号ライン6の下端部は、その下側に設けられた引き回し線10を介して、アクティブ基板1の下辺突出部1a上の左側の点線で示すデータ線駆動用の半導体チップ搭載領域11内に設けられた出力側接続端子（データ信号端子）12に接続されている。上記において、引き回し線7および引き回し線10は、それぞれ、両端の2本のみが図示されている。

【0015】

半導体チップ搭載領域 8 内およびその外側には入力側接続端子 13 および該入力側接続端子 13 に接続された外部接続端子 14 が設けられている。半導体チップ搭載領域 8 上には、図示していないが、走査信号ライン 5 に走査信号を供給する走査線駆動用の半導体チップが出力側接続端子 9 および入力側接続端子 13 に接続されて搭載されている。半導体チップ搭載領域 11 内およびその外側には入力側接続端子 15 および該入力側接続端子 15 に接続された外部接続端子 16 が設けられている。半導体チップ搭載領域 11 上には、図示していないが、データ信号ライン 6 にデータ信号を供給するデータ線駆動用の半導体チップが出力側接続端子 12 および入力側接続端子 15 に接続されて搭載されている。

【0016】

対向基板 2 の下面にはブラックマトリクス 17、カラーフィルタ（図示せず）およびITO等の透明な金属からなる対向電極（図示せず）が設けられている。カラーフィルタは表示領域 4 内に設けられ、対向電極は表示領域 4 内から表示領域 4 の周辺部に亘りベタ状に形成され、ブラックマトリクス 17 は、表示領域 4 内では各カラーフィルタの境界のみに格子状に形成され、表示領域外では数mmの幅の方形枠形状とされ、一部が対向電極上に重合して該対向電極と同電位となるようになっている。この場合、ブラックマトリクス 17 の上辺、下辺および左辺の外側縁は、シール材 3 のうち液晶注入口形成部 3a を除く実質的にほぼ方形枠状の部分の上辺、下辺および左辺の外側に配置され、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17a は、表示領域 4 の外側においてシール材 3 の右辺の内側に配置されている。

【0017】

次に、走査信号ライン 5 の右端部と出力側接続端子 9 とを接続する引き回し線 7 の一部について、図 2 を参照して説明する。引き回し線 7 は、走査信号ライン 5 の延長線上に位置する延長部分 7a および該延長部分 7a に直交する直交部分 7b を有している。この場合、延長部分 7a のピッチは走査信号ライン 5 のピッチと同じであり、直交部分 7b のピッチは走査信号ライン 5 のピッチよりも小さくなっている。また、各延長部分 7a と各直交部分 7b との各交点 7c は、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17a の外側（右側）において、シール材 3

と重なる領域およびその外側に配置されている。ここで、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a とシール材 3 との間隔 W1 はシール材 3 の幅 W2 よりも小さくなっているが、この間隔 W1 は光漏れを起こさないようになるべく小さい方が好ましい。

【0018】

以上のように、この液晶表示装置では、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a をシール材 3 の内側に配置し、引き回し線 7 の交点 7 c をブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a の外側に配置しているので、シール材 3 と重なる領域に配置された引き回し線 7 の交点 7 c がブラックマトリクス 17 と対向しないようにすることができる。この結果、走査信号電位となる引き回し線 7 の交点 7 a と対向電極と同電位となるブラックマトリクス 17 との間に比較的大きな電位差が生じることがなく、シール材 3 から溶出するイオン性不純物が引き回し線 7 の交点 7 c に集中しないようにすることができ、したがってシール材 3 から溶出するイオン性不純物に起因する引き回し線 7 の交点 7 c の腐食を防止することができる。

【0019】

なお、上記第 1 実施形態では、図 2 に示すように、引き回し線 7 の交点 7 c をブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a の外側（右側）においてシール材 3 と重なる領域およびその外側に配置した場合について説明したが、これに限定されるものではない。例えば、図 3 に示すこの発明の第 2 実施形態のように、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a とシール材 3 との間隔 W1（図 2 参照）はなるべく小さい方が好ましいが、この間隔 W1 内に引き回し線 7 の直交部分 7 b を配置するようにしてもよい。すなわち、引き回し線 7 の交点 7 c をブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a の外側（右側）においてシール材 3 と重なる領域およびその内側と外側に配置するようにしてもよい。

【0020】

また、図 4 に示すこの発明の第 3 実施形態のように、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a の内側（左側）に引き回し線 7 の直交部分 7 b を配置するようにしてもよい。このようにしても、シール材 3 と重なる領域に配置された引

引き回し線 7 の交点 7 c はブラックマトリクス 17 と対向しないので、別に問題はない。なお、図 2、図 3、図 4 において、引き回し線 7 の本数が異なるが、これは図示の都合上である。

【0021】

また、上記第 1 実施形態では、図 1 に示すように、引き回し線 7 をアクティブ 1 の右辺部上にのみ配置した場合について説明したが、これに限定されるものではない。例えば、図 5 に示すこの発明の第 4 実施形態のようにしてもよい。すなわち、この実施形態では、アクティブ基板 1 の下辺突出部 1 a 上の中央にデータ線駆動用の半導体チップ搭載領域 11 が形成され、その左右両側に走査線駆動用の半導体チップ搭載領域 8 A および 8 B が形成されている。そして、走査信号ライン 5 のうち上側の約 1/2 のものの右端部は、その右側に設けられた引き回し線 7 A を介して、アクティブ基板 1 の下辺突出部 1 a 上の右側の点線で示す走査線駆動用の半導体チップ搭載領域 8 A 内に設けられた出力側接続端子 9 A に接続されている。走査信号ライン 5 のうち下側の約 1/2 のものの左端部は、その左側に設けられた引き回し線 7 B を介して、アクティブ基板 1 の下辺突出部 1 a 上の左側の点線で示す走査線駆動用の半導体チップ搭載領域 8 B 内に設けられた出力側接続端子 9 B に接続されている。上記において、引き回し線 7 A および引き回し線 7 B は、それぞれ、両端の 2 本のみが図示されている。

【0022】

この場合、ブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a および左辺の外側縁 17 b はシール材 3 の内側に配置されている。そして、右側の引き回し線 7 A の交点 7 c はブラックマトリクス 17 の右辺の外側縁 17 a の外側に配置され、左側の引き回し線 7 B の交点 7 c はブラックマトリクス 17 の左辺の外側縁 17 b の外側に配置されている。

【0023】

図 5 に示すこの発明の第 4 実施形態では、アクティブ基板 1 の下辺突出部 1 a 上の中央にデータ線駆動用の半導体チップ搭載領域 11 を形成し、その左右両側に走査線駆動用の半導体チップ搭載領域 8 A および 8 B を形成して、走査信号ライン 5 のほぼ半数ずつを、それぞれ、アクティブ基板 1 のシール材 3 が形成され

る側縁部に少なくとも一部が該シール材 3 に重ねて形成された引き回し線 7 A および 7 B を介して左右の走査線駆動回路に接続しているため、アクティブ基板 1 のシール材 3 より外側の部分を小さくすることが可能となり、ひいてはアクティブ基板 1 の図 5 における左右方向の幅を小さくすることができる。この場合、ブラックマトリクス 1 7 を樹脂で形成するような場合には、ブラックマトリクス 1 7 の外側縁 1 7 a および 1 7 b を引き回し線 7 A および 7 B の交点 7 c に重ねて形成することもできる。

【0024】

なお、上記各実施形態では、ブラックマトリクス 1 7 の右辺の外側縁 1 7 a (および左辺の外側縁 1 7 b) をシール材 3 の内側に配置した場合について説明したが、これに限らず、図示していないが、ブラックマトリクス 1 7 を、その右辺の外側縁 1 7 a (および左辺の外側縁 1 7 b) の少なくとも一部をシール材 3 の外側に配置するとしても、シール材 3 と重なる領域に配置された引き回し線 7 (7 A、7 B) の交点 7 c と少なくとも重ならない領域に配置するようにしてもよい。

【0025】

さらに、上記各実施形態では、アクティブ基板 1 の下辺部を対向基板 2 から突出させ、この下辺突出部 1 a 上に半導体チップを搭載する場合について説明したが、これに限らず、図示していないが、アクティブ基板 1 の右辺部を対向基板 2 から突出させ、この右辺突出部上に半導体チップを搭載するようにしてもよい。この場合、データ信号ライン 6 に接続された引き回し線 1 0 に交点形成されるため、対象となる引き回し線はこの引き回し線 1 0 である。また、この発明は、走査線駆動用およびデータ線駆動用の集積回路は、半導体チップを搭載する場合に限らず、アクティブ基板 1 上に、直接、薄膜トランジスタで形成したり、あるいは、パッシブ型の液晶表示装置に適用することも可能である。

【0026】

【発明の効果】

以上説明したように、この発明によれば、シール材と重なる領域に配置された引き回し線の交点がブラックマトリクスと対向しないようにしているため、シー

ル材から溶出するイオン性不純物が引き回し線の交点に集中しないようにすることができ、したがってシール材から溶出するイオン性不純物に起因する引き回し線の交点の腐食を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

この発明の第 1 実施形態における液晶表示装置の要部の等価回路的透過平面図。

【図 2】

図 1 に示す液晶表示装置の一部を拡大した透過平面図。

【図 3】

この発明の第 2 実施形態における液晶表示装置の図 2 同様の透過平面図。

【図 4】

この発明の第 3 実施形態における液晶表示装置の図 2 同様の透過平面図。

【図 5】

この発明の第 4 実施形態における液晶表示装置の図 1 同様の等価回路的透過平面図。

【図 6】

従来の液晶表示装置の一部の等価回路的透過平面図。

【図 7】

図 6 に示す液晶表示装置の一部を拡大した透過平面図。

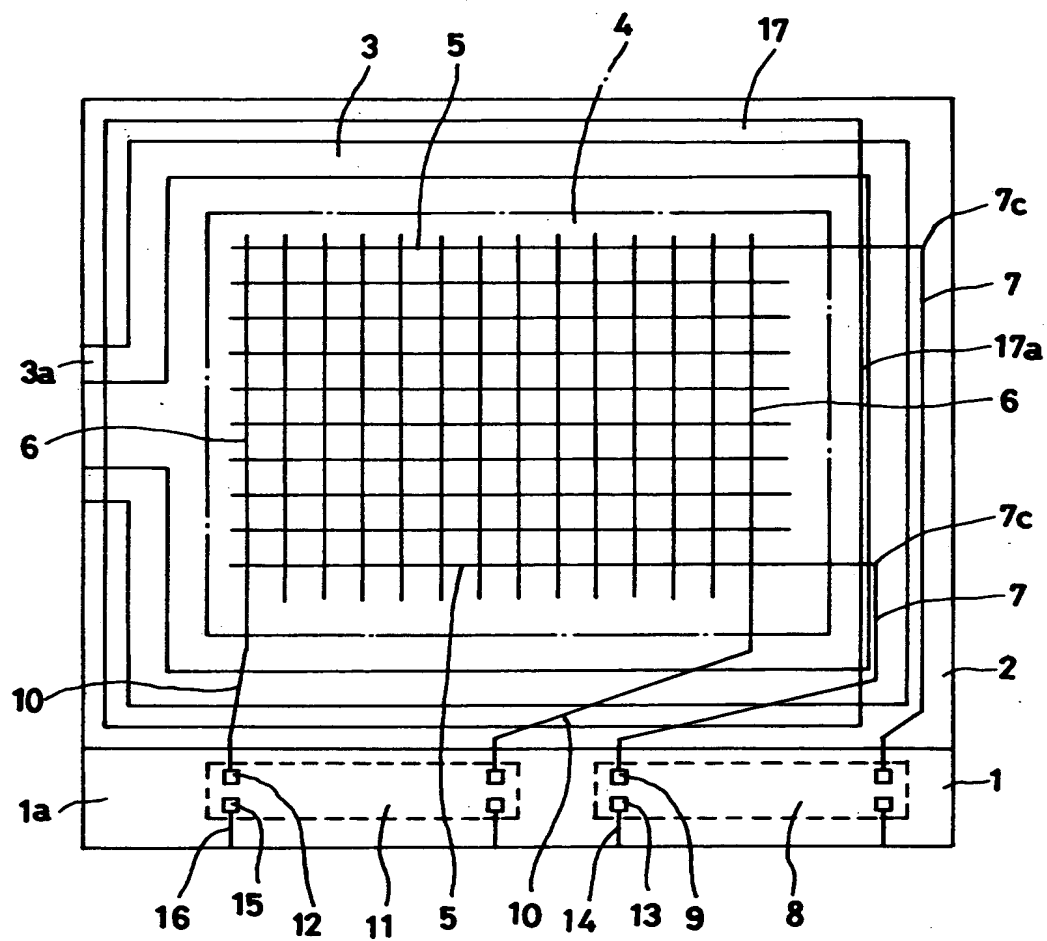
【符号の説明】

- 1 アクティブ基板
- 1 a 下辺突出部
- 2 対向基板
- 3 シール材
- 4 表示領域
- 5 走査信号ライン
- 6 データ信号ライン
- 7 引き回し線

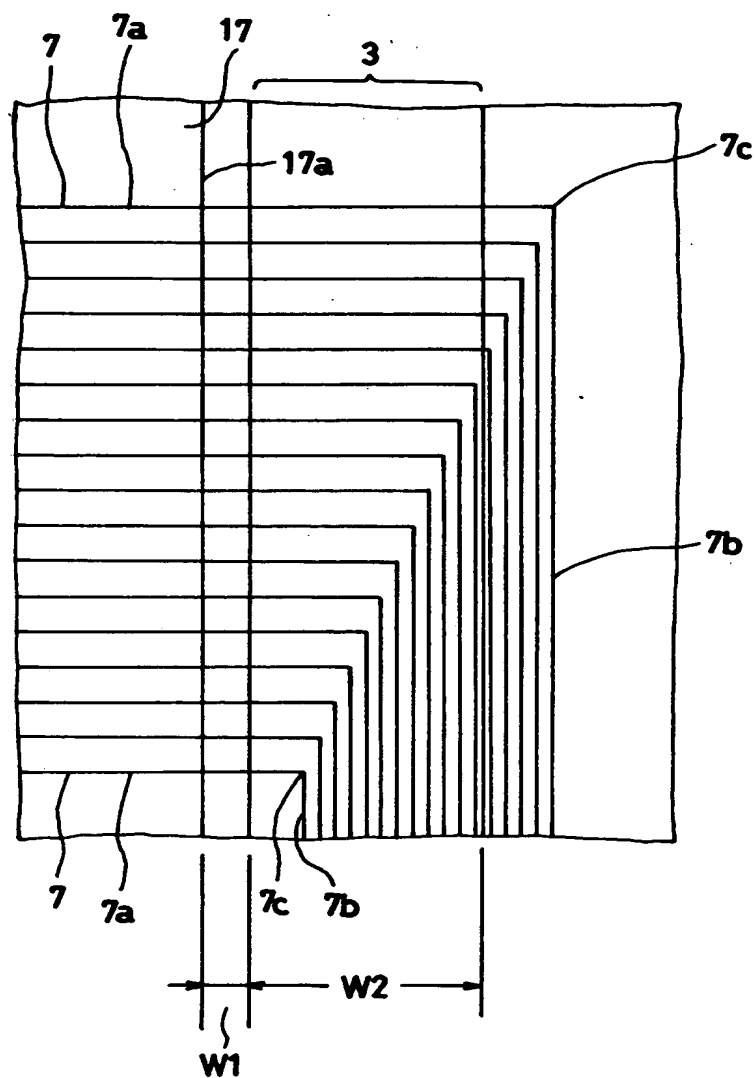
- 7 a 延長部分
- 7 b 直交部分
- 7 c 交点
- 8 半導体チップ搭載領域
- 1 0 引き回し線
- 1 1 半導体チップ搭載領域
- 1 7 ブラックマトリクス

【書類名】 図面

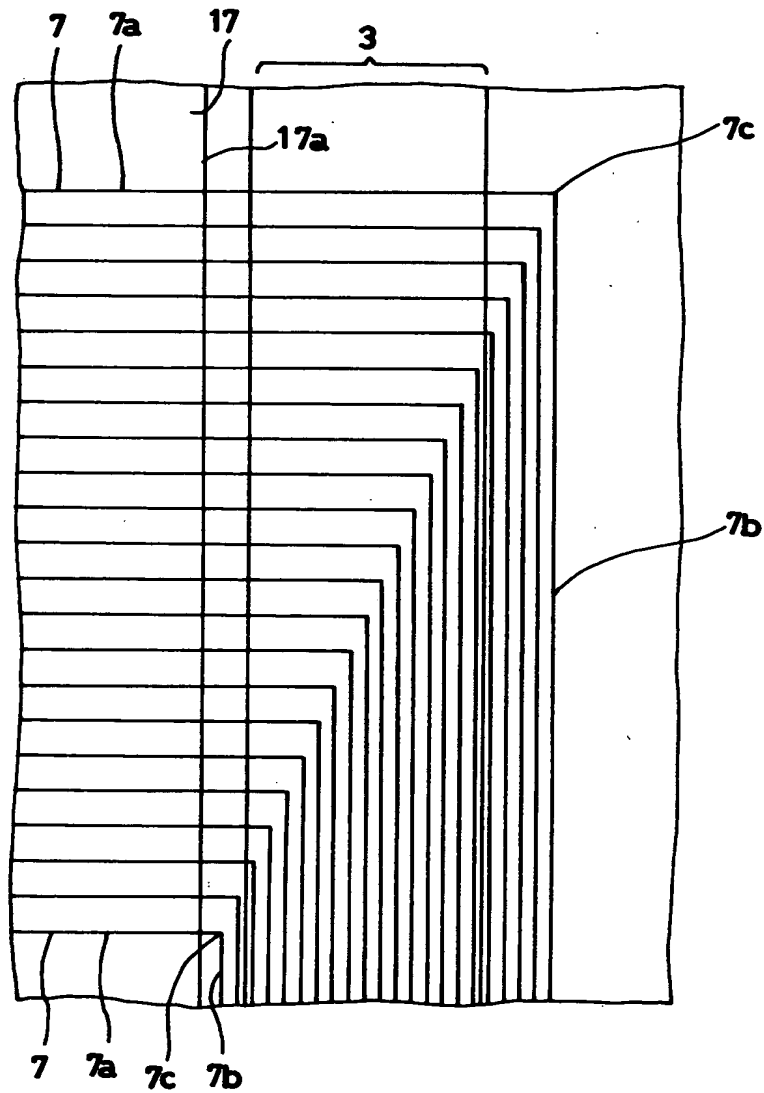
【図 1】



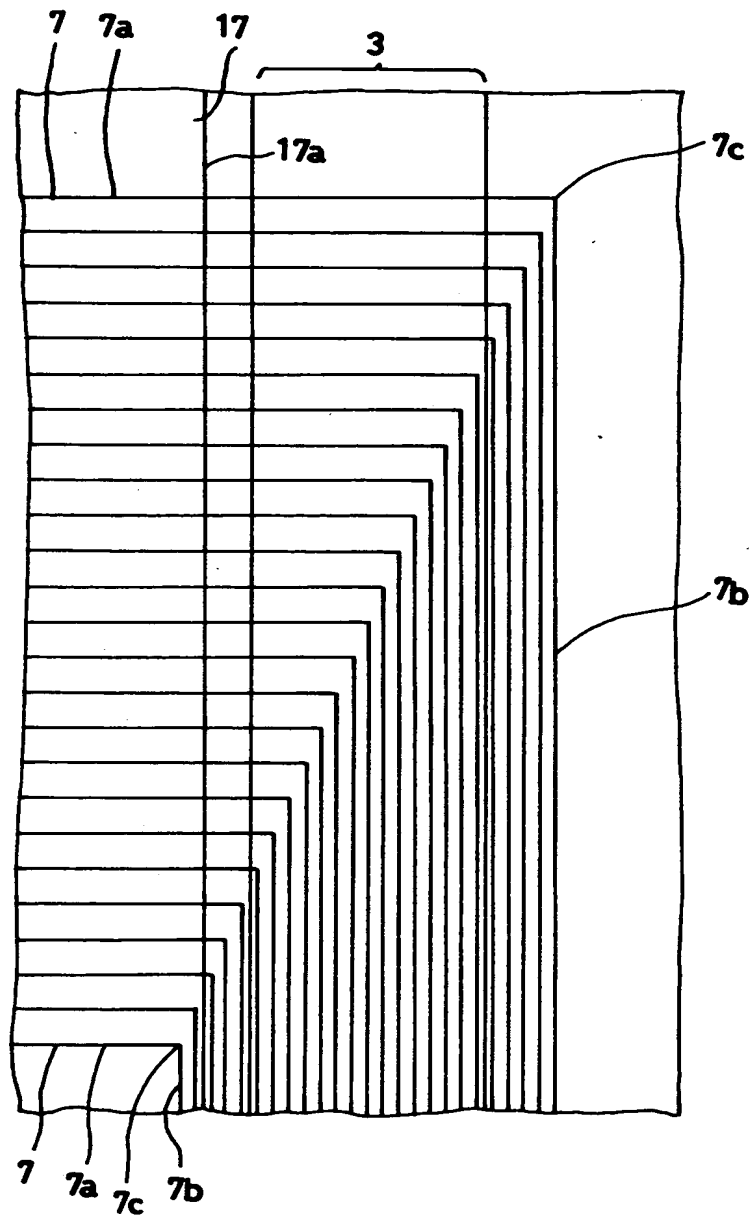
【図 2】



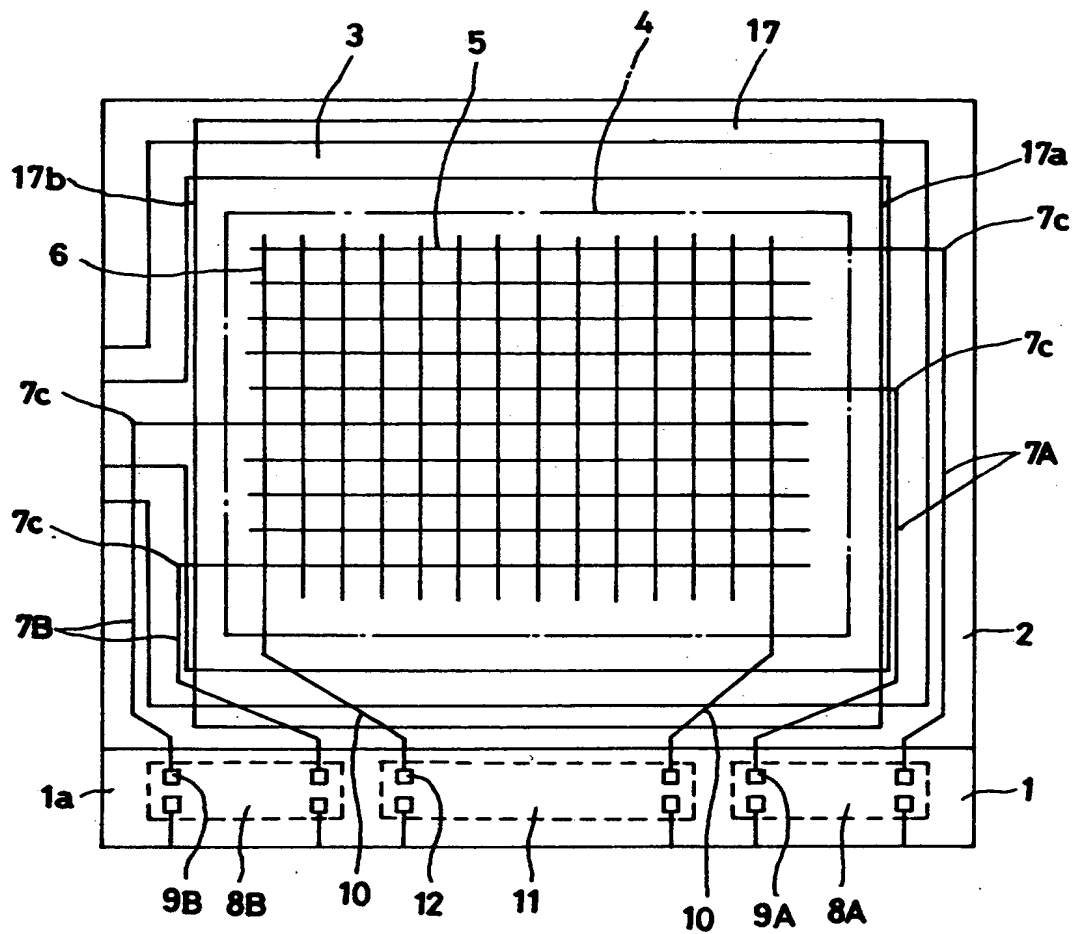
【図3】



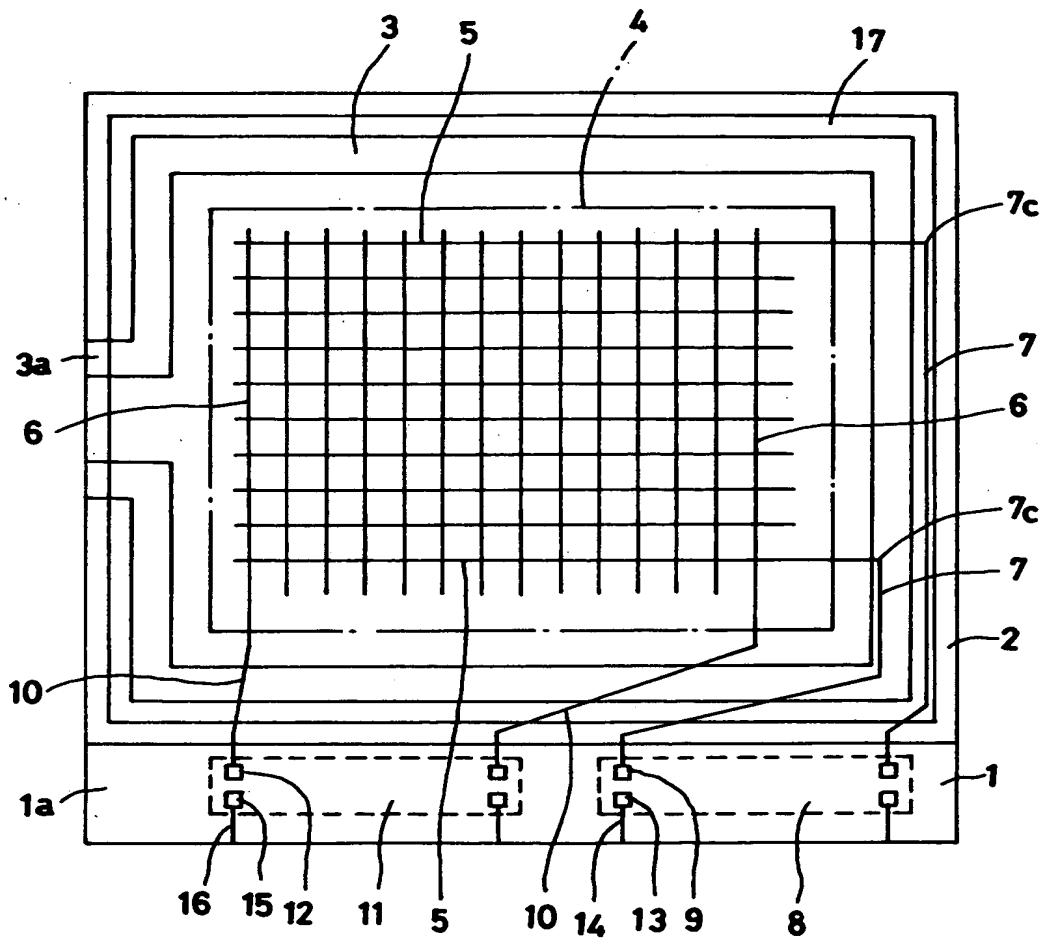
【図 4】



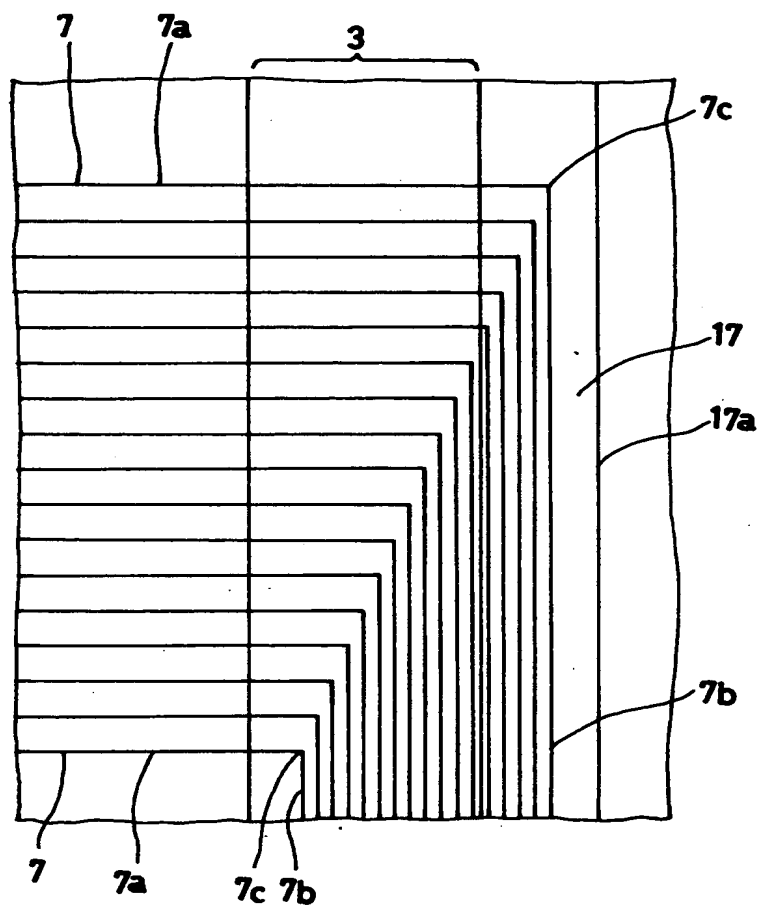
【図 5】



【図 6】



【図7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 対向電極と同電位となるブラックマトリクスを備えたアクティブマトリクス型液晶表示装置において、シール材から溶出するイオン性不純物に起因する、走査信号ラインに接続された引き回し線の交点の腐食を防止する。

【解決手段】 ブラックマトリクス17の右辺の外側縁17aはシール材3の内側に配置されている。走査信号ライン5に接続された引き回し線7の交点7cはブラックマトリクス17の右辺の外側縁17aの外側に配置されている。これにより、シール材3と重なる領域に配置された引き回し線7の交点7cがブラックマトリクス17と対向しないようにすることができる。この結果、走査信号電位となる引き回し線7の交点7aと対向電極と同電位となるブラックマトリクス17との間に比較的大きな電位差が生じることがなく、シール材3から溶出するイオン性不純物が引き回し線7の交点7cに集中しないようにすることができる。

【選択図】 図1

特2001-037808

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-037808
受付番号	50100205628
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成13年 2月16日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 2月15日
-------	-------------

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001443]

1. 変更年月日	1998年 1月 9日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都渋谷区本町1丁目6番2号
氏 名	カシオ計算機株式会社